

2024

4月

ゆうひろば

遊通信

第 190 号



「アイヌの声を国会に！ アイヌ施策推進法の“作り直し”を求める集会」
(2024 年 4 月 20 日、北海道クリスチャンセンター)

特集 ヘイトにどう対抗するか

差別を告発し可視化した多原さん そして私たち和人は…	・・・ 2
体験報告 ヘイト集会が野放し	・・・ 4
沖縄視点で考える杉田水脈氏ヘイト発言	・・・ 6
レイシズム憲法を超えるために	・・・ 7
差別という暴力と植民地主義	・・・ 8
アイヌの声を国会に！	・・・ 10
書評『アイヌもやもや』	・・・ 12

寄稿 ラポロアイヌネイション「サケ裁判」で原告が一審敗訴 ・・・ 13

寄稿 自由創造社会ヤポネシアを創ろう ・・・ 14

リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」(第9回) ・・・ 15

連載 タントアナクネピリカ(第9回) ・・・ 16

連載 フィールドワークな日々(第96回) ・・・ 17

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など ・・・ 18

特集

ヘイトにどう対抗するか

アイヌ民族へのヘイトが横行している。アイヌ施策推進法施行から5年、国による謝罪も賠償もない中、アイヌ自らが権利回復の声を上げ始めるのに張り合うかのように、リアルで、ネットで、国会議員までもが、差別を否定したり、ありもしない特権を言い募るなどしている。在日コリアン、琉球出身者も標的にされている。加害の側にいる多数者はこの問題をどうとらえ、対抗していくべきなのか。マイノリティ、マジョリティの声を集めた。



衆議院第二議員会館で3月28日に開かれた院内集会であいさつする多原さん

しかし、杉田はその後、居直って自らのアイヌ差別を否定。さらには、法務局の制度に問題があるなどと自らを正当化したり、まったく根拠のないアイヌ関連事業での不正を示唆して「公金チューチュー」などと書き込み、被害者側に非があるかのように責任転嫁したり、以前より巧妙で悪質なヘイトを流し続けている。

法務局についても今春、残念な事態が明らかになった。北海道在住のアイヌでアーティ

差別を告発し可視化した多原さん そして私たち和人は…

飯島秀明

アイヌ民族に対するヘイトが、とりわけネット空間で蔓延していることを、勇気をもって告発し、可視化した一人が多原良子さん。人権を誰よりも尊重すべき国会議員でありながらヘイトを垂れ流し続ける自民党の杉田水脈に対して抗議の声を上げた、アイヌ女性団体「メノコモシモシ」の代表だ。

多原さんが杉田の攻撃対象とされたのは2016年。多原さんが特別な思いでアイヌ衣装を身にまとい、臨んだスィス・ジュネーブの国連欧州本部で開かれた女性差別撤廃委員会の日本政府報告書審査の場だった。

多原さんは胆振地方の鶴川町（現むかわ町）出身。実家の仏壇には、シヌイエ（成人女性が口の周りに彫る入れ墨）をしてアイヌ衣装を着た祖母の写真があった。差別の中、自分がアイヌであることを恥じるよう思い込まれるような環境で育った多原さん。和人の男性と結婚後、夫婦で帰省する際には、いつ夫が祖母の写真を見て「お前のおばさんはアイヌなのか」と言い出すかとびくびくしていたという。

その後、民族活動に携わる中で誇りを取り戻し、民族差別と女性差別が単に重なるだけでなく補強し合って自分たちアイヌ女性を苦しめる「複合差別」にも気付いた。その状況と格闘する中でたどり着いたのが2016年の女性差別撤廃委員会だった。かつては祖母の写真から自分がアイヌだと知られてしまっているのではないかと恐れていたそのアイヌ衣装を、今度は誇りを持って身にまとい、委員に対し懸命に日本の先住民族女性の苦境を訴えた。その姿をブログなどで揶揄したのが杉田だった。多原さんらを隠し撮りし、「日本国の恥晒し」「小汚い恰好に加えてチマチヨゴリやアイヌ民族衣装のコスプレおばさんまで登場」などと投稿。民族衣装に止まらず、先住民族・アイヌそのものを否定する言葉だった。

2022年秋、この書き込みが国会で問題になり、それをきっかけに逆に多原さんへのヘイトが拡散。多原さんは昨年3月、杉田の書き込みについて札幌法務局に救済を申し立て、同年9月、法務局が人権侵犯を認定した。

ストのマウンキキさんが、かつて札幌市長選に自民党の推薦で出馬したこともある政治団体元代表の本間奈々から、了解なく名前や出自、家族の情報を明かし、シヌイエに助成が出るかのような事実と反する文章を投稿され、追従する書き込みも相次いだ。

このためマウンキキさんは今年1月、札幌法務局に人権侵犯被害の認定と書き込みの削除を申し立てたが、法務局は「相手が聞き取りを拒否したら事実確認ができないので、被害の認定はされない」と逃げ腰で、書き込みの削除についても「1件1件、どのように辛いか説明してもらう必要がある」と被害者に二次被害を強いる条件を出した。職員から繰り返し返されたという「私たちは中立です」という言葉。加害者と被害者の間での「中立」とは差別の黙認ではないか。

アイヌ施策推進法は第4条でアイヌ差別を禁止しているが、ヘイトは止められていない。同法には罰則がない上、国や自治体に差別撤廃への努力を求める規定もなく、見直しが急務だ。さらに、国連の人種差別撤廃委員会が日本政府に勧告している、政治家に対しても付度せず人権侵犯を積極的に救済する、政府から独立した機関の設置や、罰則付きの包括的なヘイト防止法の制定も課題だ。3月28日

にはこうした課題の実現に向けて衆議院第二議員会館で院内集會が開かれ、部落解放同盟やLGBTなどマイノリティの代表も参加。多原さんが、日本の先住民族政策を国連の先住民族権利宣言の水準まで引き上げるよう訴え、集めた署名約9万3千筆を、多原さんらの働きかけを受けて全国から協力に手を上げた40人余の紹介議員に手渡した。

筆者は今年1月13日に開かれた、政府与党・杉田水脈議員に対する抗議集會に携わった。準備中、多原さんと一緒にいて、ふとした表情や発言などから、ヘイトがどれだけメタルを蝕むのかを感じる瞬間があった。差別の被害者であるマイノリティがさらなる攻撃を覚悟しながら加害者と闘わざるを得ない状況はおかしい。マジョリティの暴走を止めるのは本来、マジョリティの責任のはずだ。私たちには今、多原さんを励ますだけでなく、差別問題の当事者として、ともに闘いの前線に立つ姿勢が求められているのではないだろうか。

飯島秀明（いじまひであき）

日本の植民地支配・侵略責任の清算を目指し「遊」や沖縄の米軍基地を考える会・札幌、平取「アイヌ遺骨」を考える会で活動中。

特集

体験報告 ヘイト集会が野放し

長岡伸一

アイヌヘイト集会が札幌のド真ん中で公然と開かれるので、抗議するために集まれ、と呼びかける緊急メールが届いた。天気予報によれば雪も降るので、防寒の備えを万全にして駆けつけた。会場は、通称かでる。北海道アイヌ協会や道立アイヌ総合センターなどの公的な拠点が入居するビルの1階ホールだ。受付に積まれたアイヌ問題シンポジウムのチラシを一枚いただいた。先住民族論が暴走すると危険なので、科学的な視点から議論を深めたい、などと書いてある。シンポジストの経歴紹介によれば、医者、北大院卒、現職の札幌市議会議員など、社会通念上は一応信用できることになっている面々が並ぶ。しかし主催者は、2019年に白石区民センターで「あなたもなれる? みんなで『アイヌ』になろう?」と題するトンデモ集会を開いた、悪名高き歴史修正主義グループだ。

現場に早く到着したTV取材班が、三脚を立てて準備していると、主催者側の一人がハンディカメラを構えて近づいた。「HBCか。オレはTBSの社長を知ってる。今度、東京

で株主総会に出て報告してやるよ」と顔を撮ろうと迫る。これは、サル学の専門用語では「マウントをとる」行動か? 僕は、元同業者の親近感から、「挑発に乗らないのは、さすが」などと余計な声援を送ってしまったが、あとで聞いたら、ドキュメンタリー『ヤジと民主主義』を劇場拡大版も作った、知る人ぞ知る監督だった。

後日放送されたニュースの中では、抗議に参加したアイヌ民族2人にすっかりインタビュしていた。ネット上に溢れるデマや誹謗中傷に、「からだ中の血が沸騰するような感じ。彼らは、私だけじゃなく、私の先祖も傷つけている。本当はアイヌも、もっと抗議しなくてはいけないんだけど、色々危険なので、できない人の方が多い…」と女性は嘆く。若い男性は、「いっしょに戦ってくれる存在は、当事者にとっては心強い味方だ」と前向きに答えた。

この日、自発的に集まった有志は30人ほど。会場の正面玄関の前に立ち、「かでるは差別に協力するな!」「レイシスト帰れ!」など

のプラカードを胸の前に静かに掲げるのみ。突然、場違いな甲高い笑い声が響き渡る。ズラリと並ぶ抗議の列のズミに「差別でメシ喰うな」と手書きされたカードを持つ人を、主催者側の男が見つけ、思いつき指さし腹の底から大笑。共感してくれる友を求め館内に戻り袖を引っぱって出て来て再び指さして大笑。「ブーメラン〜ブーメラン♪」と歌い始めた。僕の世代にとっては、昭和の有名ヒット曲の一節だ。その言葉自体はオーストラリア先住民の狩猟具を意味する。

まさか札幌で、こんな場面で歌われると誰が予想したろう。今や、オーストラリアは世界で最も先住民族の復権が進む先進国の一つ。一方、自称「先進国」日本は、2016年、ヘイトスピーチ解消法、2019年、アイヌ施策推進法。実際には、札幌市独自の条例や実効力を持つ罰則規定など具体的な進展が無く、ヘイト集会を市民社会は止めることができない。恥ずかしい実態を国際社会に向けて発信してしまった。

長岡伸一（ながおかしんいち）

元NHK札幌放送局番組制作ディレクター。アイヌ史に関する講座のコーディネーター。

特集

沖縄視点で考える杉田水脈氏ヘイト発言

渡名喜隆子

杉田水脈のアイヌ、朝鮮の文化を侮蔑・否定したブログ発言に、琉球民族である私自身も同様に侮蔑、否定された怒りを覚えている。国会議員で政府要職にある彼女に、その後も平然とヘイト発言を許していることは、アイヌ民族、琉球民族、在日朝鮮・韓国、東アジアへの過去の歴史を振り返らない「思考停止」をしている私たちの責任は重い。

沖縄はアイヌ、朝鮮と同様、琉球併合時から同化・皇民教育のもと、言葉を奪われ、名前の改正・読み替え、文化、宗教を否定されたことで、民族（琉球・沖縄人）としての誇りを堂々と語れずにいた。それは歴史としての過去ではなく、現代においても続いている。同じ過去を持つアイヌ、朝鮮にも同じ痛みを感じる。

過去に沖縄人に向けた屈辱的なヘイト発言があった。二〇一三年、翁長元知事が那覇市長時代にオスプレイの配備拒否、普天間飛行場の閉鎖・県内移設反対の建白書を添えて四一市町村首長らが東京銀座をデモ行進をした際、街頭から「売国奴」「非国民」「日本から出ていけ」のヘイトであった。その後、高

江のヘリパット建設強行に反対運動を行っていた住民へ大阪から来た機動隊が「土人」「シナ人」と発した言動。これらの発言は個人への攻撃ではなく、琉球民族へのヘイトである。杉田水脈が放っている発言もアイヌ、朝鮮人民族へのヘイト発言である。

同じく杉田水脈の民族差別的発言と重なるのが、一九〇三年第五回内国勧業博覧会で琉球、アイヌ、台湾先住民（原住民）、その他日本が植民地化した東アジアの生身の人間が展示された学術人類館である。人間展示はアイヌ、琉球、他の被植民者で、東京帝国大学坪井正五郎教授が積極的に関与し、学知の植民地主義の発端となった。学術人類館は「その展示は坪井にとつては『陳列された人間は人類学の研究の材料』でしかなかった。人間間序列の頂点にいる日本人は展示になく、高見から下位の人々を眺めていた。」（「京大よ、還せ」八四頁より抜粋）人類学者の視点は人種間序列の頂点にいる植民者の研究で、被植民者民族を高見から見る日本人杉田水脈をつくり上げた。

二〇二〇年以上経た今も、植民地・民族差別

の象徴学術人類館の思想が脈々と続く現状は、日本帝国政府以降の琉球併合、台湾、朝鮮の侵略植民地問題が未だ反省なく精算されていない歴史認識の影響は大きい。

力（権力）のある国会議員の杉田水脈の民族差別発言に、力のない人間がどう抵抗し戦っていけばいいだろう。

琉球・沖縄は私が生まれた時から命と尊厳を守るため米軍、基地、日本と戦っていた。それは抑圧が可視化されていたこともあるが、差別を受けていた琉球民族が命と尊厳を守る事への抵抗も大きい。昨今、マイノリティへの杉田水脈の高見視点での発言は看過できない人間の尊厳・人権無視である。

昨年、今年と杉田水脈発言抗議集会を行った際、多くの人の参加があった。それは杉田水脈発言に一般人が「NO」の反応を示したことだ。そのパワーをつなげていくことはヘイトへの大きな抵抗になる。

一人一人ができる力でじぶんの足下から抵抗の意志を示す、第二の杉田水脈を生まない社会監視をする行動が人間を守る大事な事と感じている。

渡名喜隆子（とうなちたかこ）

沖縄浦添村（現在は沖縄県浦添市）出身、ヤマト名「となき（渡名喜）」から琉球名「（名）「とうなち」にかえり、内にふせていた琉球とマブイ（魂）を取りもどしつつある沖縄人

特集

レイシズム憲法を超えるために

私たちの植民地主義を直視する

前田朗（朝鮮大学校法律学科講師）

日本国憲法の光と影

「日本国憲法の光と影」などと言うと「光はあるが、影なんてない」とおっしゃる方がいます。

前文の主権在民と国際協調主義と平和的生存権、憲法第9条の戦争放棄と軍隊不保持、そして充実した人権条項と権力分立の日本国憲法です。護憲運動は「9条は世界の宝」と唱えてきました。「憲法の影」という表現には反発が起きます。

「レイシズム憲法」などと言うと猛烈な反論が寄せられます。

しかし、残念ながら日本国憲法は同時に象徴天皇制と外国人排除の憲法です。過去の戦争を反省したことになっていますが、被害の反省であつて必ずしも加害の反省ではありません。戦争や植民地支配の反省は、戦後八〇年を迎えようとするいまなお未決の課題となっています。日本軍性奴隷制（慰安婦）問題や徴用工問題をめぐる日本政府や社会の反応は、日本国憲法と矛盾しないのです。

植民地支配への反省は十分見られません。

戦争推進の要の天皇制を残存させました。家長制の基軸としての天皇制には性差別が内包されています。平和主義とレイシズム（人種民族差別）が矛盾したまま同居しているのが日本国憲法です。法の下の平等と女性差別が同居しているのに、矛盾の解析がなされていません。

憲法制定議会のための衆議院議員選挙（一九四五年二月）は、沖縄県民と旧植民地出身者の選挙権を停止して実施されました（古関彰一）。沖縄県民を排除して憲法第九条が制定され、在日朝鮮人を排除して「国民の基本的人権」が語られたのです。憲法学は異議を申し立てませんでした。身分制と外国人排除の日本国憲法の下でジェンダーギャップが拡大するのは自然なことです。人権の名の下に人権を侵害する抑圧的憲法です。過去ではなく現在の憲法学が抱え込んでいる矛盾です。

せっかくの平和憲法が日米安保軍事同盟によってズタズタにされています。平和主義は

同時に一九九四年以来、国連人権委員会に通つて日本軍性奴隷制の解決を求めました（クマラスワミ『女性に対する暴力』明石書店、マクドゥーガル『戦時性暴力を裁く』凱風社）。沖縄米軍基地問題や在日朝鮮人に対するヘイト・クライム問題を国連人権理事会や人種差別撤廃委員会にアピールしてきました。

それでは私は植民地主義を克服できたのでしょうか。

私の一族は明治初期に札幌周辺に入植した屯田兵です。父方も母方も地主でした。アイヌモシリへの侵略者です。第二次大戦後の農地改革により父親は土地をすべて失い、貧しい青年時代を過ごしましたが、一族全体の財産のおかげで、私は何不自由なく高度経済成長期を過ごしました。高度成長が、朝鮮戦争やヴェトナム戦争の特需によって潤ったことは言うまでもありません。日本は安保体制の下、日米合同軍による秩序維持の先頭に立ち、軍勢力と経済力で周辺諸国を威嚇し、収奪してきました。

日本国家が一五〇年の歴史を通じて形成してきた植民地主義とレイシズムは、この社会に根深く、隅々まで埋め込まれています。日本文化には植民地主義が編み込まれ、抜きがたいものとなっています。

私の中に植民地主義が根深く息づいています。このことを自覚して植民地主義とレイシズムを克服する努力を続ける必要があるのです。

だからと言って、いつでも、何もかも植民地主義などと言い募るわけではありませんが、その構造が頑丈に出来上がった社会であることには常に警戒を要します。

エリート・レイシズムの自覚を

人種民族差別のなかでも悪質なヘイト・スピーチについて考えてみましょう。

ヘイト・スピーチはマイノリティの属性を攻撃し、人間の尊厳を侵害します。一定の集団を攻撃・排除するので民主主義を損ないます。ヘイト・スピーチは社会を壊します（前田朗『ヘイト・スピーチ法研究序説』『ヘイト・スピーチ法研究原論』『ヘイト・スピーチ法研究要綱』以上三一書房）。

ところが、憲法学者の多くは「表現の自由の優越的地位」を根拠に「ヘイト・スピーチの刑事規制は許されない」と主張します。憲法第9条を擁護し、平和主義と民主主義を唱えてきたリベラル派の憲法学者がヘイト・スピーチを擁護します。このためヘイト・スピーチ規制はできず、二〇一六年のヘイト・スピー

足蹴にされ、集団的自衛権の行使、敵基地攻撃論、戦時国家への武器輸出と、何でもありの軍事国家が現出しています。

性差別とレイシズムと家長制の日本社会を担保するのが憲法政治です。自覚なきレイシズム憲法学がこれを後押しします。レイシズムと男性中心主義は近代国民国家の憲法に共通ですが、この国ではさらに後ろ向きの憲法解釈が実践されます。何しろ「人として認められる権利」（世界人権宣言第六条）さえ認めないのが日本憲法学です（前田朗「人として認められる権利」『明日を拓く』二九・三〇号）。

私の中の植民地主義

日本国憲法の下に生まれた私は、高校生時代に長沼ナイキミサイル基地訴訟に出会い、自衛隊を憲法違反と判断した札幌地裁の福島判決（一九七三年九月七日）に触れたことから法学部に進み、法学研究者になりました。

一九九〇年代には、アメリカによるイラク湾岸戦争に日本政府が戦費調達したことに反対して市民平和訴訟の原告となり、裁判を闘いました。カンボジアPKO派遣違憲訴訟や昭和天皇死去の際の即位の礼大嘗祭違憲訴訟の原告になりました。

千解消法はヘイト・スピーチを許容する、世界でも珍しい法律です。

これは「マジョリティの表現の自由」にすぎません。「マイノリティに表現の自由を認める必要はない。マジョリティの表現の自由こそ大切だ」という合唱です。これを支えるのが思想の自由市場論です。思想の自由市場では圧倒的多数のマジョリティの利益のためにマイノリティを犠牲にすることが正当化されがちです。

その背後にあるのはエリート・レイシズムです。この社会の意識や世論を形成するエリート層に共有されているレイシズムがメディアを制し、文化となり、法律や制度になるのです。無意識・無自覚のエリート・レイシズムはヘイト・スピーチ擁護の岩盤となります。

国際的には近現代の資本主義・植民地支配・奴隷制の上に形成された西欧中心主義ですが、日本では西欧中心主義と日本主義（アジア蔑視）がアマルガムとなっています。欧米中心主義の「世界史」を生きる私たちのレイシズムが見えてきます（的場昭弘・前田朗『希望と絶望の世界史』三一書房）。

前田朗（まえだ あきら）

1955年琴似生まれ。札幌西高卒業。東京造形大学名誉教授。主著に『軍隊のない国家』（日本評論社）『9条を生きる』（青木書店）『旅する平和学』（彩流社）『憲法9条再入門』（三一書房）等。

特集

差別という暴力と植民地主義

曹金時江

仕事を求めて日本に来た私の両親は、北海道には十円のために国に帰るつもりで来たと言っていた。けれど一九四五年以降韓国の故郷を訪ねることも、外国人登録手帳に記号、地域名として書かれている朝鮮に行くこともなく母は五三歳で父は七九歳で亡くなった。

一五歳の少年が故郷にいても仕事がなく日本に出稼ぎに行くとき周りの大人たちは反対した。「上野駅で立つていれば手配師が来て現場に連れて行ってくれる」という話だけを頼りに言葉もわからないまま船と汽車を乗り継ぎ上野駅に着いた。一九三〇年、一五歳の父は上野で学生服を買ってそれを着て手配師を待った。それは静岡の現場に連れていかれた北海道で亡くなるまでの長い長い土着人生の始まりであり、また日本で植民地朝鮮人としての差別の始まりでもあった。一八歳の時通りかかった大人三人から瀕死の暴力を受けたときに抵抗できなかったのは腹がすいて力が出なかったから。日本語もわからずに現場での力仕事は只々自分の体力を頼りにがむしゃらに働くことのみだったと聞く。

ある時私は学校に行くのが嫌でお腹が痛いだったか、熱があるかどうかのうそをついた。角巻をかぶり病院に向かう母の後をとぼとぼとついていった。仮病だと病院の先生からも母からも叱られた記憶はないが、その時の私たちには国民保険がないことを知ったのはずっと後からだ。日銭のない朝鮮人の家庭には大きな失費だったと思う。後年父の仕事を手伝ったときに仕事関係の名簿を指さしながら「ここに差別がある」と言った父に向き合えず顔をそむけた私がいる。札幌に出てきてから両親は二人の妹を朝鮮学校に通わせた。高校は茨木と仙台。しかし経済的に厳しい状況にある中で子供たちを朝鮮学校に送ることは親たちの負担も大きかった。それでも「金のあるものは金を」「力のあるものは力を」「知恵のあるものは知恵を」と民族教育を守り続けた。一九六七年白石区南郷にあった朝鮮学校の入学式に行った母は、「子供たちがおっきな声で朝鮮語で歌うのを聞いて、あーもう朝鮮語で歌ってもいいんだー、そう思ったらあとからあとから涙がこぼれて

きた」と話していた。一九四八年四月GHQの指令を受け日本政府は「朝鮮人学校閉鎖指令」を発令弾圧を行った。二〇二四年の今も日本政府は高校無償化から朝鮮学校を除外したまま、二〇一九年の幼保無償化からも除外し続けている。自治体が出す補助金にまで締め付けを行っている。日本政府の民族教育への弾圧は今も続いている。朝鮮学校や民族学級への民族教育弾圧は在日朝鮮人の存在を消すこと、植民地支配をなかつたことにする事につながる。このような日本政府の方針は在日朝鮮人の問題だけでなく多文化共生、異文化交流などの共生社会を目指す政府や自治体との方針とも相反する。それはまた外国人労働者や研修生、難民などの様々な背景を持つ人たちとどのような社会を作っていくのかと無関係ではない。家族のことを書いたのは、構造的、制度的、社会的差別は日常の生活の中にあるからだ。あなたと私たちの生活の中に。「遊」のメールで紹介されたロビン・ディアンジェロ著「ホワイト・フラジリティ」「ナイス・レイシズム」の概略のみですが読んだ。まさに日ごろ感じていることと重なる。権力はよく知っている。またそのように私たちを誘導している。「遊」講座で講師をして頂いた東京の田中宏さんは、在日の人に「私たち

のためにありがと」と言われ「いやいやあなた方のためじゃないですよ、日本のためですよ」「どうもやってやっている感があるんだよね」と書かれ、話される。「アリランラブソティ」という映画のチラシに「日本に暮らす私たちは、映画やドラマ、音楽や食など韓国文化に魅了され続けています。でも、在日韓国人の存在、歴史がすっぽり抜け落ちているような気がするんです」と監督の言葉が書かれている。

最後に、瀕死の状態で道端に転がっていた一八歳の父を自宅で三日三晩の介抱をしたくれたのはとうりかかった日本人のおばさん。そして私の生がある。

曹金時江（ちよきむしがん）

北海道生まれ北海道育ち。札幌在住は五五年になる。在日朝鮮人二世。特別永住者証明書欄の国籍・地域の記載は朝鮮（朝鮮という国名はないので、無国籍者でもある。が、法務局に保管されている登録原本の本籍は両親の出身地韓国慶尚南道と書かれている。摩訶不思議な在日朝鮮人の取り扱い）ハンマダン主幸。二〇二〇年より「ダイクツーリズムで巡る北海道近代史の旅」を企画実施。

アイヌの声を国会に！

5月15日開催のアイヌ施策推進法の「作り直し」を求める院内集会に向け、法律の抜本的な修正を提言

俵屋年彦

2024年5月15日に衆議院第1議員会館で、アイヌ政策検討市民会議が主催するアイヌ施策推進法の「作り直し」を求める院内集会が開かれます。これに先立ち、4月20日に北海道クリスチャンセンターで市民参加の討論集会が行われました。

アイヌ施策推進法は、2019年の施行から5年が経ち、見直しの時期を迎えています。アイヌ政策検討市民会議は、国会院内集会を開き、法律の抜本的な修正を提言する予定です。

ジェフリー・ゲーマン代表は、開催挨拶のなかで「アイヌ政策から直接影響を受けるアイヌはもとより、アイヌ政策に懸念をもつ国内外の研究者、教育者、ジャーナリスト、芸術家、社会活動家、政治家、学生や市民らが集まり、現状のアイヌ政策について開かれた場で批判的に検討。その結果明らかになった問題点を広く市民社会と共有し、国や道主導から当事者アイヌの自決権に基づくものへと転換するための基盤、代替策をつくり、日本

政府や国連人権監視委員会など国内外の関係諸機関に提示することを目的としている」と市民会議の活動を紹介しました。

その上で「推進法を見直す時期になっている。黙っていたら現行法を承認したことになり。5月15日に我々市民会議のメンバーやアイヌの活動家たちと一緒に向かい、議員会館で院内集会、記者会見、政府要人との面談を予定している。今日は現段階で市民会議が訴える内容を皆さんと共有し、討論を通じて、さらに洗練された内容にしたい」と討論集会での活発な議論を呼びかけました。



開催挨拶するジェフリー・ゲーマン代表



少数民族懇談会は法律名見直しを提案

を実施する。不当な差別行為に対しては罰則規定を設ける。不当な差別行為により被害を被った被害者を救済するために、第三者による人権救済機関を設置するの項目を追加する。現行五条の2に新たにアイヌ主体の教育委員会を設置し、アイヌ子弟教育全般に関する業務を行う」のほか、「アイヌ政策推進地域計画の実施主体をアイヌ民族団体とする。貧困対策として、生活実態に即して健康で文化的な生活を維持していきけるように借入金・負債の減免措置制度を充実する。低年金・無年金の高齢者への生活手当制度を設ける。墓

吉田邦彦世話人は閉会の挨拶で「2019年の推進法は、最悪最低だ。日本の現状は、国際的な先住民・少数民族復権の流れを汲んでいない。そして推進法は、アイヌ民族を分断する危険性がある」と話しました。

1984年に北海道ウタリ協会の総会で可決された「アイヌ民族に関する法律（案）」から40年が経過しました。前文に掲げられた「日本国に固有の文化を持ったアイヌ民族が存在することを認め、日本国憲法のもとに民族の誇りが尊重され、民族の権利が保障されることを目的とする」という言葉の重み、そして和人としての過ちの深刻さを、あらためて感じました。

地から持ち出されたアイヌ遺骨を大学や博物館などが所蔵していた経緯の調査、当該地域のアイヌ団体への謝罪と返還」と明記しています。

意見交換では、「推進法をつくり直しではなく廃止して、新しい法律を作るべき」「1984年にアイヌ自身が求めた『アイヌ民族に関する法律（案）』という原点から考えるべき」「先住権に対する理解が広がっていない」「学校教育の中でアイヌ民族の歴史が教えられていない」など、活発な意見が出されました。

俵屋年彦（たわらやとしひこ）

さっぽろ自由学校「遊」理事

内科・神経内科
**札幌中央
ファミリークリニック**

外来一般診療
月火木金9:00~11:30

札幌市中央区南1条西11丁目
ワンズ南一条ビル6F
TEL. 272-3455

憲法を私たちの生活に！
厚別9条の会

会員は厚別を中心に、沖縄
のアメリカ兵まで約100名

共同代表 **渡辺 信一**
TEL.090-6218-8284 FAX.011-897-8390
E-mail: mbwatanabe@yahoo.co.jp

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です

生活クラブ北海道 **検索**

推進法の改正理由を6つに整理

続いて、小坂洋右運営委員が、推進法の改正を求める理由を、6つに整理して説明しました。

1. 先住民であることに伴う権利の保障を推進法は、アイヌ民族を日本の先住民民族であると法律で明記したにもかかわらず、サケを獲る権利、森林資源を活用する権利など先住民であることに伴う権利が一つも盛り込まれていない
2. アイヌ民族が法の主体・実施の主体とされるべき

推進法は、アイヌ民族を文化振興計画や地域振興計画立案の主体とは位置づけておらず、あくまで市町村の意向と計画に基づいて財政投下の措置が行われる仕組みになっている。計画立案にアイヌ民族の同意を義務づけていない。

3. 歴史的不正義の反省を

推進法は、アイヌ民族への事前相談・協議も条約締結もなく行った北海道の日本国編入やアイヌ民族への同化政策といった明治期以来の歴史的不正義を明示しておらず、その反省に立ったものにはなっていない。

4. 今こそ国際的な流れをくむべき時

推進法が、2007年の「先住民の権利



見直し提言を説明する小坂洋右運営委員

に関する国連宣言」や国際人権法である「自由権規約」など国際法や国際的な先住民・少数民族復権の流れを汲んでいない。

5. 差別を本心に根絶できる規定を

推進法が、第1条で「アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現を図る」とうたい、第4条で「何人も、アイヌの人々に対して、アイヌであることを理由として、差別すること、その他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」と求めつつも、罰則

を欠いていることから、差別の横行を許し、歯止めとしては十分機能していない。

6. 奪われた遺骨の返還を盛り込み、実効性のある規定に

推進法は、人種差別主義に根ざした和人大学研究者らによって不当にアイヌ墳墓から持ち出された遺骨の返還に一切触れておらず、国際社会の潮流である先住民への遺骨返還が日本国内ではほとんど進んでいない現状を打開する責務を果たしていない。

以上6点を踏まえた法律の修正を求めています。

平田剛士運営委員は、条文に沿って推進法の現状を解説。市町村によっては、アイヌ政策に取り組んでいるところはあるものの、権利回復にはほど遠い実情について、統計資料を使って説明しました。

同化政策に対する謝罪と法律名の変更を

少数民族懇談会は、検討した推進法の見直し案について説明しました。

「総理大臣による明治政府いろいろのアイヌ民族への同化政策に対する謝罪を行うこと」「法律名はアイヌ基本法とすること」の2点を求めています。

「現行第四条に新たに「差別事象の実態調査

特集

『アイヌもやもや 見えない化されている「わたしたち」と、そこにふれてはいけないうちがしてしまう「わたしたち」の。』
北原モコットウナシ著 田房永子漫画 (303BOOKS 二〇二三年二月 税込一七六〇円)

アイヌのルーツをもつ著者が、無知・無理解や差別の構造、そしてマイノリティとマジョリティの関係など、アイヌにまつわる「もやもや」を解き明かしていく。女性の生きづらさやフェミニズムに関する作品で知られる田房永子さんの漫画が各章の冒頭に掲げられ、効果を増している。「もやもや」を追っていくと、女性やLGBTQ+、障がい者など他のマイノリティに重なる部分も見えてくる。

そして、「マジョリティの優位性」や「マイクログレッション（無意識の偏見）」の章を読めば、これまで無意識に誰かを傷つけてきたであろう自分自身の言動を見つめ直すことができる。自身の特権性やマジョリティ性に向き合うのは「しんどい」ことだが、この社会の制度や仕組みはもっぱら特権性やマジョリティ性を持つ人が生きやすいようにつくられているのだから、逃げていては変化を起すこともできない。

著者による関連書『つないでほぐくアイヌ／和人』（北海道大学アイヌ・先住民研究

センター、2022年）では「あなたをしはるポニタク（呪いの言葉）」が紹介されている。

・「あの人はいい人だから差別をしない」（人は社会の価値観を良いものも悪いものも吸収しながら育ち、差別の元になる偏見は誰の心にもある。「差別は悪人がすることだ」という思い込みは、差別について考えたり話したりすることをできなくする）

・「自分は差別をしない／この組織には差別はない」（差別について考え、話すことを打ち切ってしまう。組織の場合、高い立場にいる者が発言することは、差別を受けている人の口を封じるNGコメント）

・「私にはアイヌの友人がいる」（だから（わたしは）差別者ではない」という意味。多くの場合、差別についてそれ以上話すことを打ち切る効果がある）

・「アイヌがこれでいいと言っている」（他の者が良いと言っているのだから、お前も良いと言え」という意味）

ポニタクには、「それに触れると傷つく、モヤっとする、勇気をふりしぼったカミングダ

寄稿

ラポロアイヌネイション「サケ裁判」で原告が一審敗訴

平田剛士

「自分たちには、先住民族として地元の川で自由にサケを捕獲する特別な権利がある。それを確認してほしい」。そう訴えたラポロアイヌネイションに対して、札幌地方裁判所（中野琢郎裁判長）は4月18日、「訴えを棄却する」と判決しました。

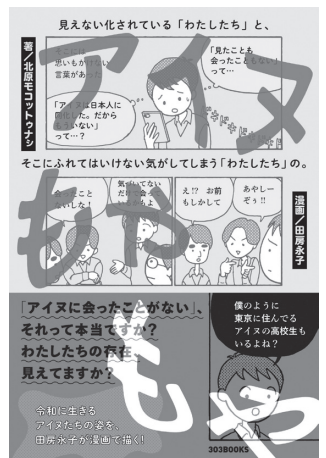
◆「歴史的不正義」の典型例

ラポロアイヌネイションは、北海道東部の浦幌町在住のアイヌ漁師たち約10人のグループ。「先住民族の諸権利に関する国連宣言」（UNDRIP、2007年）以降、日本で初めて提起された先住権訴訟とあって、社会の注目を集めてきました。

背景を復習しておきましょう。アイヌ語でカムイチェブ（カムイから与えられる魚）などと呼ばれる川サケ——繁殖のため海から群れをなして内陸にやってくるサケ——は、この大島で暮らす人びとに、少なくとも1万年以上前から多大な生態系サービスをもたらしてきました。ところが、本州島方面からの和人集団の到来にともない先住民には不自由さ

が増していきます。1869年（明治2年）、事実上の植民地化をこうむって日本国に取り込まれると、「近代漁業」が河口部や沿海でサケを一網打尽にしだす一方、川サケ漁には新たな禁止令が次々にかかり始めます。それから百数十年を経た現在、北海道島産サケの9割は遡上前に海で漁獲されているうえ、水産資源保護法が先住民／入植民の区別なく川サケ漁を禁止続けています。先住民族が「植民地化とその土地、領域および資源の奪取の結果、歴史的な不正義によって苦しみ……自らの権利を行使することを妨げられてきた」（UNDRIP前文、市民外交センター仮訳、一部修正）ことを示す典型例といえるでしょう。

しかし、この裁判で被告席に座った国・北海道は、原告が提示した数々の「歴史的不正義」の証拠文獻に対して認否（事実として認めるか認めないかの意思表示）すら拒み続け、またUNDRIPを「法的拘束力がない」（2020年12月11日づけ被告準備書面1）とまるで足蹴にして、ラポロの主張を真っ向から否定していました。



アウトや抗議を、無意味なものにしたり抑え込んだりする」効果があると著者は言う。差別のある社会で生きているのだから、差別の元になる偏見は誰の心にもある。それを指摘されるのは居心地の悪いことだが、ポニタクを発して自己弁護をしたり、逃避したりしては、自分にも組織にも社会にも変化は起らない。自覚し、謝罪し、学び続けることが重要だ。

近年、差別の構造を明らかにし、マジョリティの変容（とその困難さ）を説く良書が増えているが、中でも本書は入門に最適な一冊といえる。わたし自身も偏見から自由ではなく、数々の失敗をしてきたことを自覚しているからこそ、学び続けている。

八木亜紀子（やぎあきこ）

さっぽろ自由学校「遊」／開発教育協会（DEG）職員

5年にわたった弁論の末に札幌地裁が下した判決は、こうです。

「アイヌの人々の文化享有権の行使との関係において、さけの採捕は最大限尊重されるべきものであることを考慮しても、原告が本件漁業権を文化享有権の一環又は固有の権利として有すると認めることはできない。」

4年前の第2回口頭弁論で「私たちは川を取り戻し、サケを取り戻し、生活を取り戻したい」と陳述したラポロアイヌネイションの差間正樹名誉会長（当時）は今年2月6日、地元浦幌で亡くなりました。その遺影を胸に判決を聞いた差間啓全代表代行は、「アイヌの先祖たちが各地の川でなりわいとしてサケを獲っていたのは間違いない事実。それを、私たちがさも根こそぎ捕る（乱獲者集団とみなした）ような判決……。亡くなった正樹さんの遺志を引き継いでいきたい」と語り、控訴を明言しました。

平田剛士（ひらた つよし）

フリーランス記者、森・川・海のアイヌ先住権プロジェクト運営委員

自由創造社会やポネシアを創ろう

花崎 皋平

生活を作品化するという考えがうまれた

芸術化といってもいい 絵を描き 色を塗る

楽器を演奏する 彫りものを彫る ように

自由学校を作る 村や町を楽しい場にする

日本列島各地での住民の営みが作品に思えてくる

私を知るいくつか

川の上流から恩恵に応答する組織「みんなの会」を作り

下流と上流の地域をつなぐ

木曾川 長良川流域の市民の運動

「レインボー・プラン」と名付けて

地域の家庭の生ゴミを集め肥料工場を作り

出来た堆肥を田や畑で使ってもらい

農作物を育て学校給食や市民生活に利用する

山形県置賜地方の地域循環活動

札幌では 受講者が学びたい講座を計画し運営する

市民の学びの場 さっぽろ自由学校「遊」

無料で学ぶ機会を提供する自主運営の夜間中学「遠友塾」

小樽での 地元後志地域の農作物を売り

環境と文化の発展の学びの場をいとなむ八百屋

同じく小樽で 「子どもの健康を考える親の会」を立ち上げ

有害な化学物質を含む商品売らない店を営む活動

日本列島のいたるところに市民 住民の創造的な営みがある

自由創造社会主義とでもいいいたい

生活作品化社会主義と名づけてもいい

一人ひとりの暮らしでも 三度の食事作りは作品化できる

庭で花を育て 野菜を栽培する 書斎で本を読み 詩を作る

友だちとワイン会をして歓談する

読書会や朗読会も作品にする

世界のいたるところで起こっている

戦争や 武力による脅しに抗議の声を上げ

戦争に負けた戦後日本が産んだ作品としての

反戦平和の憲法をしっかりとまもり

民衆は武器をもたず 軍隊はなく

若者は徴兵されない

そういう島々のつらなり

日本列島社会やポネシアを 創ろう

リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」 第9回

花崎先生の講座を受講して

くまだ すずむ
熊田 進

退職してこれからどう生きると考え、出した答

えが「学び続ける」でした。「遊」は私にとって格

好の「学びの場」でした。アイヌの人々の人権問

題をはじめ、韓国・北朝鮮からの強制連行問題、

沖縄軍事基地問題、環境問題等関心ある講座を受

講してきました。その中でも一番心に残るものは、

花崎皋平先生の講座です。最初に受講したのは「ソ

クラテスの弁明」の学習でした。言葉として知っ

ていてもその内容は何も知りませんでした。ルソー

の「社会契約論」も同様でした。「人間不平等起源論」

もその時目にする機会となりました。

次にブラジルの教育思想家パウロ・フレイレ「被

抑圧者の教育学」も衝撃的でした。抑圧する者と

される者の間の矛盾、銀行型教育、対話的教育

教える者と教えられるものとの矛盾 教育現場に

いたものとして何も知らないままきたことに恥か

しくなりました。

「花崎先生と「詩」を味わう」講座も心に残りま

す。「石垣りん」「茨木のり子」の詩を味わいなが

らその人たちの歩んだ人生を思いました。また、一

緒に受講されている方々の感想もとても良いもの



でした。その後味わった詩人、「石川逸子」、植民地

支配の韓国に生まれた「森崎和江」の作品からも

深く考えさせられました。「山之口獺」「菅原克己」

「田辺利宏」「江原宏太」「金子光春」…先生の紹介

下さる詩人の作品のどれもが心を打つものでした。

昨年まで受講した晩年の著作「生きる場の思想

と詩の日々」では先生の歩んでこられた半生に沿っ

てその時々時代の状況、活動の実態、思いが伝わっ

てきます。先生の書かれた沢山の著作の一部「生き

る場の哲学」「静かな大地―松浦武四郎とアイヌ民

族」「田中正造と民衆思想の継承」、からも、民衆

思想家として生きる場を実践しつつ歩まれた先生

の足跡を学ぶことができます。そしてたどり着い

た境地、

1 人間存在の基底に立つ ピープルとして生きる。

平等を根本的な価値として主張する。

2 いのちを中心にしたサブシステムの思想

石牟礼道子がかねて言うように「目線を低くして、自分の身を低く置くという姿勢」を大事にする。

自然を人間の欲望充足のためにどのように処理、

処分してもよい資源とはみなさず、生命の再生産

の主体とみなし、人間はその営みに寄り添うべき。

国家を所与の必然的単位とはみなさず、より小さ

い規模の地域循環が可能な規模の社会を要請する。

3 永遠、悠久を想う霊性 永遠悠久の天地に神性

を見る境地

特定の宗教を信仰することは別に、私たちに

は有限にして無限、時間に対して永遠、日常卑俗

に対して美と崇高を感じ取る感受性があり、それ

を自覚し、活性化させることは私たちのなすべき

わざの一部である。

アジア諸地域に共通する古代からの政治の理想

は、権力の支配と権力を守る軍隊のない自治の社

会、中国の伝統思想でいう大同社会だったのでは

なかつたか。それは現代の政治思想としてはアナー

キズムに一番近いように思う。

1931年生まれの花崎先生は自分の第二の親

ともいふべき姉より一つ年上です。これからくれ

ぐれも体調に気を付けられて導いてくださるよう

お願いいたします。



原田 公久枝

第9回

旦那が入院している病院まで自転車で見舞いに行つて札幌ドームのそばを通つて、お姉ちゃんを思い出した。うちのお姉ちゃんはロジックパズルとかが好きで、そういう雑誌を買つて良く懸賞に応募していたが、「札幌ドームの日ハム対オリックスのペアチケットが当たった!」と遊びに来た。うちのお姉ちゃんには自律神経失調症とてんかんを併発するような原因不明の病気だったので、どこで急に倒れるかもわからないので、父母が車で芽室から夕張まで送つてくれて私が札幌から夕張まで迎えに行つたりしていたが、両親が年取つてからは途中で倒れても仕方ないとして首から障害者手帳を下げてそこに病気の説明を書いた紙を入れて、母が電車に乗るのを見届けて私が札幌駅のホームに迎えに行くようになった。二回だったか食べていた弁当が足元に散らばっていたことがあったが、車掌

が飛んできて大事に! ってことは無かった。ドームの時は確か清原がいたので二〇〇六年だと思う。一八年前お姉ちゃんは四二歳私は三九歳二人共その広さと人工芝の緑に圧倒されながら「選手が蟻ぐらい小さく!」「ボールがどこに飛んだか全然わからないね!」とわきやわきやして、途中喫煙室に行つたら実は席より喫煙室の方が球場全体が見れて楽しいことがわかつてまあまあ長い間喫煙室から見たりして試合が終わつて「ドームから出るのも大変!」って言いながらちよつと歩いた住宅街の居酒屋でごはんを食べて「タクシつかまるまで歩くか!」と歩き始めて今日の試合のこととか喋りながら途中歩道の縁石に座つて煙草吸つたりしながら二時間かけて家まで帰つた。「きくと居ればいつもスングイ歩かされる!」「もうきつとマメ出来てるわきつと」とか文句を言いながらも楽しそうに「酒造りの歌の最初ってどんなだった?」「そうそう! シントコサンケ! そーだヘルトゥンルトウンだ!」って二人で歩いた道を、久しぶりに自転車通つて泣いた。お姉ちゃんに最後に会つたのは二〇二二年五月四日「札幌ナンバー施設にこないで」と人目を気にするお姉ちゃんが三八号線沿いの芽室のインディアンカレーまで出て来て一緒に力

レーを食べて奢つてくれたから、食後のデザートは私が奢るねと旬菜館の横のソフトクリームを車内で食べた。凄くコロナを恐れていたお姉ちゃんがこの時期会ってくれたのは何か感じていたのか:
二ヶ月過ぎた七月一九日脳内出血で厚生病院に搬送された。行つたけど会えなかった。七月二九日病院から「少しの間状態を見るだけなら」と言われて行くが(もう戻つて来ないかもしれない)と思う。八月二七日病院から「すぐ来てください」と電話、弟に電話して行つてもらつたが「亡くなった」と。八月二九日直葬で菩提寺の大統寺に骨を納めて日帰りした。

原田 公久枝 (はらだきくえ)

札幌在住。18才年上の旦那有り。子どもなし。集金と配達のパートをしながら、アイヌの活動(歌・踊り・講演・執筆・お笑い等)をしている56歳。

オーガニック・自然食品専門店
らるごはん
おべんとうとおそうざい
らるごはん
札幌市中央区大通西23丁目
Tel 614-2406 Fax 614-3836
http://rarubatake.com
10時~19時(日~17時・祝~18時)

第九回 やっかいな問題

専門家批判、というのは、今に始まったことではない。アメリカや日本などでは、一九六〇年代から「専門家批判」が始まったと言っている。当時、環境政策でも、福祉や都市政策でも、政府や専門家たちが「政策」を独占してしまっていることに対して、大きな異議申し立てがなされた。専門家が勝手に問題を枠組みを決めて、トップダウンの解決策を提示してくることに対し、「それは違う!」という批判だった。

アメリカの社会政策の専門家だったホースト・リッテルは、こうした批判を真摯に受け止め、「やっかいな問題」というものを論じた論文「計画の一般理論におけるジレンマ」を一九七三年に発表した。論文の中でリッテルはこう論じている。「たとえば貧困問題も、最初から枠組みを決めて考えることはできない。まずは貧困問題とは何の問題なのかを考える必要がある。教育の問題なのか、技能の欠如の問題なのか、文化的な問題なのか。もしそれを教育の問題だと決めてその解決を目指すとしたとしても、その解決のプロセスで必ずそこからはみ出る問題が出てく



る。問題はいつまで経つても解決されない。すくなくとも何度も何度も再解決されつづけるだけだ」。

この論文は、「やっかいな問題」というフレーズとともに、その後長く引用されつづける論文となった。いやむしろ、二一世紀に入ってからの方がいっそうよく引用されている。「やっかいな問題」は、社会問題の解決を目指す人びとの間での共通言語となった。(ちなみに「やっかいな問題」というのは wicked problems の日本語訳で、wicked は「邪悪な、意地悪な、ひどい」といった意味。これを誰が最初に「やっかいな」と訳したのかは不明だが、なかなかいい訳だと思つた)

私も含めて、環境問題にかかわる研究者は、長くこの「やっかいな問題」と格闘してきた。

環境問題はなぜ「やっかいな」問題なのか。どんな社会問題もそうだが、環境問題は、はっきりとまとまった形で「存在」するものではない。いろいろな問題が複雑にからまりあつたその束として存在している。また、あちこちに散在する形で存在していて、とても「見えにくい」。さらに、それがどの

程度問題なのか、定量化が難しいし、そもそも実態がどうなのか、その全体をはっきりさせることは難しい。そしてさらなる難題は、環境問題がつねに多面的な「意味」をもっていて、誰がどこから見るとによつてその「意味」は変わってくる、ということだ。

そうは言つても放つてはおけない。問題に対処しなければならぬ。どうすれば「やっかいな問題」たる環境問題を解決できるのか。私が長くかかわっている環境社会学という学問は、まずは現場から考える、生活者の立場から考える、といつところから出発しようとする。そして、議論の場、コミュニケーションの場の設定などを通して、なんとか試行錯誤しながら解決していくとする。

そんな環境社会学の泥臭い方法を披露した『シリーズ環境社会学6 複雑な問題をどう解決すればよいのか』(新泉社一読を)。

宮内泰介・三上直之編著『シリーズ環境社会学6 複雑な問題をどう解決すればよいのか』(新泉社)

宮内泰介 (みやうちたいすけ)

1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員(環境社会学)。ソロモン諸島、北海道、宮城などで環境、生活の調査中。

編集便り



春、北海道の一番いい季節ですね。とはいえ、新年度がスタートする時期でもあり、制度の変更があったりして「遊」では混乱が続いています。

運営メールでご報告しましたが、クロネコメール便がクロネコゆうメールになり、信書の認定が厳しくなっており、講座案内パンフレットに会費納入のお願いを同封することができなくなりました。1種定形外郵便にすると料金がぐんと高くなります。昔北1条に事務所があった頃は1種郵便で送っていたのですが、50gを超えると一気に料金が高くなるので、2〜3gのオーバーの場合は紙の端を切り落として50gに収まるようにしたりしたものでした。今回のメール便の改定によって、「遊」だけではなく多くの市民団体が告知広報に少なからぬ打撃を受けるのではないのでしょうか。

この問題とは性質が違いますが、名義後援をめぐめる論議でも告知広報への支援の必要性が語られました。告知広報が届かなければ、その活動はないのと同じで、議論の場がやせ細るという言葉が強く印象に残っています。

また、今期のパンフレットをめぐるっては、表紙絵のジェンダー認識についても議論になりました。慣れてしまっていて見逃したり、意識から漏れたりしていたことに気づかされる機会になりました。「私が変わる、世界が変わる」原点を確認しながら新年度を迎えたいと思います。(細谷洋子)

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

会場&オンライン併用講座(2024年5〜6月開講分)

(会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて)

講座のお申込は、右のQRコード、
または「遊」ウェブサイトよりお願いします。
<https://sapporoyu.org/>



会場(対面)
申込



オンライン
申込



アメリカの歴史から大統領選と日本を考える ★講師 北村公一

- ① 5/7(火) 18:45〜 歴代大統領、選挙のしくみ アメリカの歴史①
- ② 6/4(火) 18:45〜 アメリカの歴史②

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保

- ① 5/8(水) 18:45〜 ② 6/5(水) 18:45〜 ③ 7/3(水) 18:45〜

漫画『ゴールデンカムイ』と出会い直す

- ① 5/10(金) 18:45〜 「ゴールデンカムイ」の中の小樽 ★石川直章
- ⑤ 6/14(金) 18:45〜 俳優として、アイヌ語・文化の監修者として ★秋辺日出男

人と動物との共存・共生をめざして part 4

- ① 5/11(土) 13:30〜 ヒグマは見ている ★内山岳志
- ② 6/8(土) 18:45〜 「ファーム サンクチュアリ」に保護される畜産動物たち ★関口晴実

超入門! ハングル ★李 誠(Lee Sung) リ・ソン

- 5/15(水) 開講 月2回木曜 19:00〜

このままでいいの? 再生可能エネルギーの進め方 part14

- ① 5/16(木) 18:45〜 海底地震・津波と洋上風力発電の安全性 ★鈴木猛康
- ② 6/20(木) 18:45〜 地域から止める再エネ乱開発 ★室谷悠子

私たちは沖縄の現状にどう向き合うべきなのか

- ② 5/20(月) 18:45〜 過重負担の沖縄から米軍基地を本土へ持って帰ってください ★岸本節子、知念栄子
- ③ 6/17(月) 18:45〜 「本土」で基地引き取り運動をはじめて10年の今 ★里村和歌子

半導体産業の地政学的リスクと未来展望を考える

- ① 5/21(火) 18:45〜 半導体産業の地政学的リスク ★藤原寿和
- ② 6/18(火) 18:45〜 半導体産業が地域社会にもたらす負の影響 ★藤原寿和

先住民族の森川海に関する権利 4 一海とアイヌ民族

- ① 5/24(金) 18:45〜 アイヌと海の哺乳類 ★宇仁義和
- ② 6/28(金) 18:45〜 「漁場改正」のなかでアイヌはどう生きたか ★瀧澤正

札幌貧困状況地図

- ① 5/25(土) 14:00〜 夜のパン屋さん—その様子と活動を通して見えてきたもの ★三上敦
- ② 6/22(土) 18:45〜 地域に根付いて10余年、豊平教会無料地域食堂のあれこれ ★稲生義裕

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

オンライン開催講座(2024年5〜6月開講分)

講座のお申込は、右のQRコード、
または「遊」ウェブサイトよりお願いします。
<https://sapporoyu.org/>



オンライン
申込

Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン

- 5/13(月) 開講 月2回月曜 19:00〜

〈東アジアの記憶の場〉を通して考える東アジア問題

- ① 5/14(火) 18:45〜 東アジアの記憶の場としての在満少国民 ★北嶋順子

越境する人と文化を通して読み解く東アジア VII ★講師 朴仁哲

- 6/11(火) 18:45〜 韓国の全羅南道を事例として

政治をもっとジェンダー平等に ―議会を変え・社会を変える女性たち

- ② 5/22(水) 19:00〜 政治って、面白い! 市民活動・まちづくりから議員になった2人に聞く
★いのまた由美、尾森加奈恵
- ③ 6/19(水) 19:00〜 政治分野におけるハラスメント ★濱田真里

※「著者と読む『アイヌもやもや』読書会」につきましては、定員に達したため、募集を締め切らせていただきました。ご了承ください。

会員の方で、まだ今年度分(2024年4月〜25年3月)の会費が未納の方は、会費納入にご協力ください。よろしくお願いいたします。





さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場開催講座（2024 年 5 ～ 6 月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル 5 F 501 会議室にて）

講座のお申込は、右の Q R コード、
または「遊」ウェブサイトよりお願いします。
<https://sapporoyu.org/>



会場（対面）
申込



アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00 ～

花さんの詩の世界 於：花崎さん宅（小樽）

① 5/9（木）14:00 ～ ② 6/13（木）14:00 ～

老いと向き合う part11

① 5/3（金）14:00～ エンディングノートについて知ろう！ ★大塚周雄
② 6/7（金）14:00～ 地域とつながる一当別町「風街カフェ」の見学 ★大澤俊信
* 13:50「風街カフェ」集合（当別町白樺町 60-19）

「遊」版うたごえ喫茶 2024 於：愛生館サロン（愛生館ビル 6 F 南側奥）

② 5/17（金）14:00 ～ ③ 6/21（金）14:00 ～

読書室 よりみちまわりみち

② 5/18（土）14:00 ～ ② 6/15（土）14:00 ～

「山谷 やられたらやりかえせ」 上映 & トーク

5 月 19 日（日）
13:30 ～ 第 1 回上映 15:30 ～ トーク
18:00 ～ 第 2 回上映
トークゲスト なすび
かでる 2・7 1030 会議室
（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）
前売 1,000 円 当日 1,200 円 学生 800 円

「憲法を武器として 恵庭事件 知られざる 50 年目の真実」 上映 & トーク

6 月 15 日（土）
18:00 ～ 21:00
トーク 稲塚 秀孝
愛生館サロン（愛生館ビル 6 F 南側奥）
事前申込 1,200 円 当日 1,500 円

自然食ホロ



札幌市東区中沼西
5 条 2 丁目 3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、
感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>

いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える
10,000 人の会

Simple Life, High Thinking



小 4 から高 3 まで



スコア レ ユウ

〒007-0866 札幌市東区伏古 6 条 4 丁目 4-21
TEL. 785-0228

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 愛生館ビル 5 F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）

・TEL:011-252-6752

・FAX:011-252-6751

・syu@sapporoyu.org

・<https://sapporoyu.org>



web サイト



F B ページ